

市民憲章唱和

1 あいさつ

2 協議事項

(1) 平成27年度博物館事業報告

【事務局説明】

(委員)

27年度は「おもちゃで遊ぼう」を行わなかった結果、体験講座の参加者が3000人減ったということであるが、これは博物館に遊びに来る子どもが減ったということなのか。

(事務局)

「おもちゃで遊ぼう」には同じ子が繰り返し来てくれていたので、来館する子どもが減ったとは一概には言えない。

(委員)

それを目当てに来る子ども達がいるのなら、27年度もやれば良かったのではないかと。

(事務局)

26年度の「おもちゃで遊ぼう」は特別展「昭和ミニチュア情景展」に付随する行事として行ったもので、いつまでもやっていたら良いとは考えていない。

(委員)

都築弥厚関係の出前授業がずいぶん多いが、聴講者がこの出前授業を受けた後に展覧会を見に来て、さらに理解を深めた、というような意見はあったか。

(事務局)

博物館では当然それを狙っていた。しかし、一番狙い目である展覧会直前は担当者が展示の準備に入ってしまうため講師を受けられないという事情がある。また、観覧者に出前授業を受講したか確認したわけではないので、相関関係は分からない。

(委員)

今回の展覧会を契機として、これまでの伝説的な都築弥厚から、ようやく正確な、史実に基づいた弥厚の評価ができるという気がしている。よく資料を集めてあるし、資料の内容もよく調べてあると思う。これからが都築弥厚の研究のスタートだと思うので、今回の展覧会の成果が幅広く活用されるように、今回の展示資料を研究紀要などでわかりやすくまとめて紹介してほしい。そうすれば学校現場でも一般

市民の方でも活用できると思う。

(委員)

昔は、都築弥厚や新美南吉を子どもの頃に自然に教わっていたので大人になってからも興味が持てたのだと思う。今は新美南吉や都築弥厚について学校ではどのくらい学ぶのか。

(委員)

新美南吉はすべての国語の教科書に「ごんぎつね」が載っている所以必ず勉強する。都築弥厚も4年生の社会科教材の中に郷土の偉人として出るので、安城市で義務教育を受けていれば必ず勉強する。新美南吉の下宿がある新田小学校や都築弥厚の出身地がある丈山小学校などとそうでない学校では取り組み方に温度差はあるが、環境の勉強で水のかんきょう学習館に行けば必ず都築弥厚も出てくるので、学ぶ場はある。様々な冊子もつくられているので、それをどう活かしていくかは教育現場の責任と考えている。

(事務局)

今回の都築弥厚の展覧会は地域史を研究している方からも高い評価をいただいた。展覧会の成果を後々まで残せるような方法を前向きに考える。

(委員)

古文書について、実物資料を見るのはもちろん大切だが、内容も知りたい。古文書は多くの場合展示ケース内に平置きで展示するので、空いた壁の部分に、大きな字で現代語訳があっても良いと思う。博物館では古文書を展示する場合、内容を分かりやすく伝えるためにどのような工夫をしているのか。

(事務局)

文字は読めないけれど、少しでも読みたいという人のために、資料を選択して翻刻や読み下しをつけている。また、この資料は意味も理解してほしい、というものに対しては現代語訳をつけたりしている。ただ、古文書の展示の難しいところで、すべての資料に対してこれをやると文字だらけになってしまい、見ている人が疲れてしまう。

(委員)

要点になる古文書だけでも拡大パネルにして壁に貼り、現代語訳をつけたりすれば、中学生などはそれを順に追って見ていくと思う。また、ボタンを押すとその古文書の現代語訳が映像で壁に映し出されるようにするなど、壁部分を有効利用してはどうか。

(事務局)

今開催中の文化財展では、今委員が言われたような、古文書の意識を大きなパネルにして壁に貼る、という展示をしている。それを見た上で、更に良い提案があればしてほしい。

(委員)

新聞の広告について、前年度は予算をやり繰りして広告費に宛てたということだが、今年度は予算を取ってあるのか。

(事務局)

PR に関しては今年度から指定管理者の担当になるので、新聞広告を載せるかどうかという判断は指定管理者が行うことになる。ただ、新聞広告については、決められたスペースに同じような広告が並んでいるため、効果はやや疑問。それよりもオープンの記事を西三河版などで載せてもらったほうが、はるかに効果がある。そのため、展覧会開催前日にメディア向けの内覧会を行っている。

(委員)

やはり新聞は広告よりも、今やっている、という記事が写真とともに載ったほうが効果があると思う。そうした記事をタイムリーに載るよう新聞社やテレビ局に依頼できると良い。

(2) 平成28年度博物館事業計画案

【事務局説明】

(委員)

体験講座「日本全国のバス降車ボタン押し放題」は、開催日はいつか。

(伊藤係長)

企画展「そうだ！旅に出よう ～収蔵品から見る昔の旅行」の関連行事のため、会期中の7月23日と24日に開催。指定管理者が担当しており、全国のバスの降車ボタンが並んでいて押すことができるので、子どもには喜ばれると思う。

(委員)

特別展「伊藤若冲と京の美術」について、若冲の絵は数点くらい来るのか。

(事務局)

所有者との借用資料の交渉が今月下旬から始まるので、まだご報告できる段階ではない。できるだけ若冲の作品が多く借りたいというこちらの希望はあるが、所有者も今年は若冲の記念の年ということもあって各地から貸出希望があり、その調整に時間がかかっている。

(委員)

若冲については今NHKでも詳しく取り上げており、たくさん観覧者が見込める展示なので、若冲の作品は多くなるように交渉してほしい。

(委員)

今年は指定管理1年目ということで、やりにくいこともあると思うが、お互い遠慮することなく、意

見を戦わせることで良いものを作ってほしい。

(委員)

「今年度の方針」のうち指定管理者が担当する部分について、すでに具体的に考えているものはあるか。

(指定管理者)

(5) の集客について、やはりメディアの力は大きいので、効果的に利用していきたいと思っている。

(6) のコンシェルジュガイドについては、来館者は今どんな企画をやっているか、どんなものが見られるか、ということの他に、特に市外からの来館者は、近くに食事ができる喫茶店があるかなどの周辺情報も知りたがっている。そうした来館者に対応できるよう、情報をまとめたファイルを作って受付でご案内できるよう準備をしている。

(委員)

コンシェルジュガイドは専従の職員が行なうのか。

(指定管理者)

基本的に受付職員が行なうことになるが、事務室に控えている指定管理職員も対応できるよう資料を作成中で、今月中には始められる予定。また、展示については、内容を簡単にまとめた A5 サイズの案内をすでに作成し、受付で配布している。

(委員)

誰がコンシェルジュガイドか分かるような目印はあるか。

(指定管理者)

女性職員は制服を着用している。

(委員)

催し物案内が見にくいと思う。この催し物案内を見て来館する人は多いと思うので、見やすくしてほしい。例えば子供向けの行事なら子どもの顔をつけるとか、コンサートのものなら音楽のマークをつけるなど、内容や対象がパッと見て分かりやすくすると良いと思う。

(指定管理者)

下半期の催し物案内では、アイコン表示を取り入れるなどして、すぐに対象者がわかるような工夫をしていきたい。

(委員)

伊藤若冲の展覧会は1週間前倒しということだが、1月8日まででは、年が明けてすぐに終わってしまう。しかも9日は成人の日なので、せめて9日までは開催できるよう努力してほしい。

(委員)

指定管理者がこれから様々な事業を行っていく中で、今後入館料をあげていることを考えているか。

(指定管理者)

今のところ引き上げは考えていない。

(委員)

「今年度の方針」の(2)について、特に古文書などは独特の読み方があるので、資料名や解説文にはルビを振ってほしい。古文書は資料の読み下しや解説文もほしいと思う。

(3) その他

【事務局説明】

議事終了